

「十人の病者を清める」

2023年09月21日

ある村に入られると、既定の病を患っている十人の人が出迎え、遠くに立ったまま、声を張り上げて、「イエス様、先生、私たちを憐れんでください」と言った。イエスは彼らを見て言われた。「行って祭司たちに体を見せなさい。」彼らは、そこへ行く途中で清くされた。(ルカ17:12~14)

そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を崇めるために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」(ルカ17:17~19)

主イエスはエルサレムに向かう途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入られると、既定の病を負う十人が出迎え、遠くに立ったまま、大声で「イエス様、先生、私たちを憐れんでください」と叫んだ。「既定の病」は、新共同訳では「重い皮膚病」、口語訳では「らい病」と訳されている。「らい病」は不快用語で「重い皮膚病」に変えられ、それが「既定の病」と改訳された。「既定の病」についてはレビ記13章に詳しく記されている。「らい病」は「ハンセン病」と言い換えられ、「プロミン」という特効薬が開発された1960年代までは不治の病であった。ところが、レビ記には、癒やされた場合のことも規定されているのでハンセン病でない。「既定の病」は重度の皮膚病を指している。「既定の病」では何の病気か分からず、「重い皮膚病」の方が分かり易い。原語は「レブラ(らい病)」で、「既定の病」はハンセン病と受けとめられていたということである。

「既定の病」に罹ると、共同体から排除され、人を見れば「私は汚れた者です」と言いながら、後ずさりしなければならなかった。「既定の病」に侵された10人は、彼らだけの群れを作り、苦しみを分かち合う共同生活をしていた。そして、主イエスを見て、規定によって近づくことができないので、遠くから声を張り上げ、憐れみを乞うたのである。

主イエスは彼らを見て、「行って、祭司たちに体を見せなさい」と答えられた。「既定の病」に罹患したか、また、癒やされたかは祭司が判定していた。彼らは主イエスの言葉に従い、祭司のところに向かう途中、「既定の病」は清められた。その中の一人が、癒やされたことを知って、大声で神を崇めながら、戻って来て、主イエスの足元にひれ伏して感謝を表わした。この人はサマリア人であった。当時、ユダヤ人はサマリア人を軽蔑し、口も利かない関係にあった。10人の者たちは仲間内ではサマリア人も加えた共同生活をしていた。同じ苦悩を背負った者たちは、差別しないで、苦しみを共にしていたのである。

主イエスは感謝を言い表したサマリア人を見て、「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を崇めるために戻って来た者はいないのか」と言われた。癒された十人のうち、九人がユダヤ人で、彼らは癒されたが、主イエスに感謝することはなく、祭司に癒されたことを証明してもらい、ユダヤの共同体に戻っていった。主イエスは「外国人」と言っているが、サマリア人の一人だけが、癒やされた喜びを感謝するために戻ってきた。主イエスは彼に、「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われた。救ったのは主イエスであるが、サマリア人として差別され、既定の病で排除されていた彼にとって、この言葉はどれほど大きな喜びであったであろうか。彼は立ち上がって、自分の人生を歩む者になったに違いない。